

民主、行使容認に賛否

民主党は14日の安全保障総合調査会で、集団的自衛権に関する議論を再開した。国会論戦に備え、

行使について民主党が想定する47の具体的な事例の検証を進める。ただ、党内は行使容認をめぐる

賛否が分かれており、党としての統一見解を示せるかは微妙だ。

民主党は集団的自衛権の行使に関して「解釈変更」に反対する立場をとる。2月にまとめた党見解では、憲法解釈を「内

閣が便宜的、意図的に変更することは立憲主義に反する」との考えを示し、

政府の姿勢を批判した。ただ、党内の意見対立が表面化するのを懸念し、行使自体への賛否には踏みこんでこなかった。

民主党内には集団的自衛権の行使容認に同調する保守系議員も少なくない。

長島昭久氏が会長を務める超党派議連「外交・安全保障政策研究会」は、今月、集団的自衛権の行使に向けて憲法解釈を見直す方針を明確にする基本法を制定すべきだとの考えをまとめた。